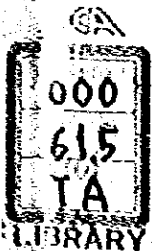


昭和58年度 集団研修  
橋 梁 工 学 コ ー ス  
研 修 実 施 要 領

昭和58年8月

国際協力事業団  
研 修 事 業 部



TA
JR
83-127

国際協力事業団		
受入 月日	84.5.21	000
登録 月日	58.10.27	615
登録No.	06196	7A12
	登録No. 10755	TA

# 目 次

I	コース名等	1頁
II	コース目的及び背景	1
III	到達目標	2
IV	研修項目及び研修方法	3
V	研修員参加資格要件	6
VI	研修実施体制と運営	7
VII	研修施設	7
VIII	研修教材	7
IX	研修の評価	13
付録一	1. 研修日程	14
付録一	2. 研修員リスト	19
付録一	3. 見学等受入先及び連絡先	21
付録一	4. 橋梁工学年次別受入国別実績表	23
付録一	5. 研修評価報告	25

JICA LIBRARY



1014962013



# 昭和58年度 集団研修「橋梁工学コース」

## 研修実施要領

### I コース名等

1. 和 文：橋梁工学コース
2. 英 文：GROUP TRAINING COURSE IN BRIDGE  
ENGINEERING
3. 研修期間：昭和58年8月18～昭和58年11月4日
4. 定 員：20名

### II コースの目的及び背景

#### 1. コースの目的

開発途上諸国において、橋梁の建設は、その国の社会生活の安定を図るとともに経済的発展の基盤となる重要な事業である。

しかしながら各国においては、技術的に未熟である為に先進諸国からの技術援助が必要となっている。このような現状で橋梁の建設整備を促進するにはその主体となるべき人材の育成を行い、技術的な向上を図ることが肝要である。

本コースでは、我が国の橋梁工学技術を研修員に習得させることにより自国における橋梁の建設整備に貢献する中核的技術指導者を育成し、橋梁にかかわる技術的諸問題の解決と、社会経済的発展に寄与することを目的とする。

#### 2. 設立年度及び経緯

本コースは、昭和40年度より実施し、今回が19回目にあたる。現在までの18回の受入実績は217名に達している。

## ■ 到達目標

### 1. コース到達目標

開発途上国における橋梁の計画設計並びに建設は、一般に先進国のコンサルタントの指導下に行われるのが、常である事を鑑み、コンサルタントにより提出された計画、設計及び施工等の諸レポート類の妥当性を正確に把握し得るレベルの技術的知識と技能を習得させることを目標とする。併せて、当該国の地域開発に寄与する為に、我が国の地域開発を目的とする橋梁建設の歴史、経験等も習得させる。

### 2. 主要研修課目の到達レベル

(M)研修項目及び研修方法にて記載。

# IV 研修項目及び研修方法

主要項目	項目構成	時間配分(時間)		指導内容及び指導方法
		講義	実習・視察	
(A) 日本の道路、橋梁 目的：日本の道路及び橋梁の現状と将来の計画について講義と現場研修を通して理解させる	1. 日本の道路	2.5		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の道路の全般的紹介と道路事業制度の説明</li> <li>日本の高速自動車国道の現状と将来計画の講義</li> <li>東京都内及び近郊の高速道路の概略紹介</li> <li>関西自動車道の概略と工事現場見学</li> <li>スライドを中心とした橋梁の紹介、現場研修旅行(土研、中研、九州、中部、関西地方)</li> <li>本四架橋の概略と工法紹介、現場研修</li> </ul>
	2. 高速自動車国道	2.5		
	3. 都市内高速道路	2.5	5.0	
	4. 関西自動車道	2.5	5.0	
	5. 橋梁計画	2.5	5.0	
	6. 本四架橋概説	15.0	60.0	
(B) 下部工の設計、加工 目的：土質調査から下部工の設計、加工までを講義を中心として理解させる	1. 土質調査	2.5		<ul style="list-style-type: none"> <li>スライドを利用して土質実験の説明</li> <li>基礎工全般についての概説</li> <li>地質に合った基礎の設計(直線基礎、クレーン基礎、杭基礎)</li> <li>基礎工本の種類と説明</li> <li>橋台、橋脚の種類とその設計</li> </ul>
	2. 基礎工概論	2.5		
	3. 基礎の設計	5.0		
	4. 基礎の加工	5.0		
	5. 橋台、橋脚の設計	2.5	17.5	
(C) コンクリート橋の設計、加工 目的：R.C橋、P.C橋の設計、加工及びP.C製作工場見学を通して我が国のコンクリートの現状を理解させ、各国への運用を認識させる。	1. コンクリート橋概論	5.0		<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクリートの強度、せん断、ひびわれ等の講義</li> <li>スライド、映画を利用してR.C橋の設計方法の説明</li> <li>R.C橋の加工方法の要領を説明、コンクリートについての説明</li> <li>道路橋示方書の説明と、P.C.T橋の設計例</li> <li>スライドを通しての種々のP.C橋の説明、P.C工場の見学研修</li> </ul>
	2. R.C橋の設計	5.0		
	3. R.C橋の加工	3.0		
	4. P.C橋の設計	5.0	5.0	
	5. P.C橋の加工	3.0	25.0	

主 要 項 目	限 目 構 成	時間配分(時間)		指 導 方 法 及 び 指 導 内 容
		講 義	実 習	
(D) 設計基礎理論 目的：設計の基礎となる理論等を整理させ、各設計方法の運用を認識させる	1. 構造物設計理論	2.5		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 構造物の設計における安全性、荷重等についての概論</li> <li>○ 構造力学の基礎理論の紹介</li> <li>○ 断面理論の基礎と応用</li> <li>○ 耐震設計の理論とスライド等による地震被害の紹介</li> <li>○ 設計に及ぼす諸の形質と設計法の説明</li> <li>○ 支保の分類、構造、機能及び製造工程についての説明</li> <li>○ スライドによる各種形式の橋梁を典型的観点から紹介</li> </ul>
	2. 構造力学概論	2.5		
	3. 断面理論	2.5		
	4. 耐震設計	2.5		
	5. 耐風設計	2.5		
	6. 支保の設計	2.5		
	7. 橋の支	17.5		
(E) 鋼橋の設計施工 目的：鋼橋の設計、施工について講義、現場を通して、日本の橋梁技術を認識させる	1. 鋼橋の設計	5.0		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道路橋示方書の概説と、鋼橋の各部分の説明</li> <li>○ 鋼橋の製作と架設の説明、製鉄所と鋼橋製作工場での現場研究</li> <li>○ JISの説明、橋梁の構造設計の種類と応用範囲の説明</li> <li>○ コンピュータを用いた設計及び製図を説明、マイクロフィルム等を使って説明</li> <li>○ 鋼橋とコンクリート橋の合成橋の性質と設計方法の紹介</li> </ul>
	2. 鋼橋の施工	5.0	10.0	
	3. 橋梁現場設計	2.5		
	4. 橋梁の自動設計	2.5		
	5. 鋼合成橋概論	2.5		
(F) 橋梁の維持、補修 目的：橋梁等を通じ、橋梁の維持補修の重要性を認識させる	1. 橋梁の維持、補修	5.0		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 橋梁補修工法の説明と実際の紹介</li> </ul>
		5.0		
		10.0		



主 要 項 目	課 目 構 成	時間配分(時間)		指導方法及び指導内容
		講義	実習 実験	
(c) 個別研修 目的：各機関において、第1 期での研究、実地技術 を習得させる		25.0	25.0	○土木研究所、道路公団、首都高速道路公団での個別研修
計		97.5	25.0	75.0

## V 研修員参加資格要件

### 1. 当該コースに係る General Information に記載の応募条件

- a) O . I のⅧ章に述べられる手続により当該政府より推薦された者
- b) 大学卒業又は同等の学力を有し、職務経験3年以上を有する者
- c) 現在、道路建設関係業務に従事している者
- d) 年齢35才以下の者
- e) 充分なる英語会話力及び読解力を有する者
- f) 研修に耐え得る精神的、身体的健康を有する者。婚姻は無資格たる条件とする。

### 2. 人選、方法及び選考基準

- a) 参加応募者の人選は参加割当国政府による。
- b) 受入選考は、応募割当国政府の人選過程を尊重し、国際協力事業団が建設省道路局と協議して行う。
- c) 受入人員は原則として1ヶ国1名とし、同一政府により複数の人選があり、両者共に応募条件を満たす場合は応募割当国の優先順位を尊重して選考する。又、定員に余裕のある時は同一国より複数の受入も可能とする。

### 3. 応募割当国……………19ヶ国

- ・アジア地域(9ヶ国)…バングラデシュ、ビルマ、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、中国。
  - ・中近東地域(4ヶ国)…エジプト、イラク、シリア、トルコ。
  - ・アフリカ地域(3ヶ国)…ケニア、タンザニア、ザイール。
  - ・中南米地域(3ヶ国)…ブラジル、コロンビア、パナマ。
  - 応募割当国中 バングラデシュ、シンガポール、ザイールからは参加応募者なし
  - 割当国の他 エチオピアから応募希望があったため1名受入れ
  - 割当国中 タイ、イラク、シリアは2名ずつ受入れ
- 以上、17か国より20名参加。

## Ⅱ 研修実施体制及び運営

### 1. 研修実施体制

- 実施組織：国際協力事業団（研修事業部研修第一課）  
建設省道路局（国道第二課）  
財団法人日本橋梁建設協会
- 実施総責任者：星野 清（建設省道路局国道第二課課長補佐）
- 研修実施責任者：中野 正則（建設省道路局国道第二課橋梁係長）
- 事務担当者：中野 正則（建設省道路局国道第二課橋梁係長）  
永友 致敏（国際協力事業団研修事業部研修第一課）  
宇野 波子（財団法人日本橋梁建設協会）
- 研修監理員：田村悦次郎（国際協力サービス・センター）  
菅原千秋（国際協力サービス・センター）

## Ⅲ 研修施設

- 国際協力事業団 東京インターナショナルセンター（T.I.C）  
東京都新宿区市ケ谷本村町4-2  
Tel 03-267-2311(代)

## Ⅳ 研修教材

### 1. テキスト

- (1) Specification for Highway
- (2) Bridge in Japan
- (3) Civil Engineering in Japan

## 2. 視覚教材

- (1) O.H.P
- (2) 8%フィルム
- (3) 16%フィルム
- (4) スライド及びビデオテープ

橋梁工学集研修実施の業務分担

分類	業務	所属省	委託先	国際協力事業団	研修員	備考
研修員来日前準備業務等	(1) C.I.の作成	◎		◎	○	
	(2) C.I.の作成及び発送			◎		
	(3) 参加研修員の選定	◎		◎		
	(4) 受入調整	◎		◎		研修実施要領と対比させる。
	(5) 研修プログラム原案作成	○		◎		
	(6) 研修プログラム訂合せ	○		◎		
	(7) 研修プログラム作成	○		◎		
	(8) 委託業務本務局取	○		◎	△	
	(9) 講師選定	◎		◎		
	(10) 研修内容の決定	◎		◎		
	(11) 講師依頼と文書交換	○		◎		
	(12) 研修実施予案の作成	○		◎		委託契約とする。
	(13) ケヤースト原簿依頼	○		◎		
	(14) ケヤースト翻訳	◎		◎		
	(15) ケヤースト期英文校正	◎		◎		○
	(16) 補助資料作成	△		◎		○
	(17) 英文研修日報表作成			◎		○
	(18) 研修員リスト作成			◎		○
	(19) 研修先の連絡準備	○		◎		

分類	業 務	実施者	委託先	国際協力事業団	研修員	備 考
研修員 来朝 日備 前業 務	01 研修先との文書交換	○	◎		◎	90日以上滞在の場合のみ
	02 TICプリアーニング補助				◎	
	03 研修員外出旅費				◎	
	04 研修期間中の滞在事項伝達				◎	
	05 研修実施要領原案作成	◎			◎	
	06 研修実施要領作成				◎	
研 修 期 間 中 の 一 般 業 務	07 アキスト類の準備と配布				◎	(1) 契約に含まれる場合は除く (2) 契約に含まれない場合は滞在先が事業団に対し講師の等級・居住所を事前に要請する。
	08 講師旅費の起案及び支給	◎			◎	
	09 研修内容及び進行の事前調整				◎	
	10 研修員の出席確認				◎	
	11 視聴覚教材等の準備				◎	
	12 講義の進捗、その準備	○			◎	
	13 研修員の把握(課制度)と調整				◎	
	14 講師謝金支払手続き支給			◎	◎	
	15 研修員通問報告書まとめ				◎	
	16 研修記録作成				◎	
	17 追加補助資料の準備、配布				◎	
	18 アキスト類の保管、整理	○			◎	
	19 研修中間報告				◎	
20 見学対象施設の決定	◎			◎		

分類	業 務	施 設 省	委 託 先	国際協力 事業団	研 修 員	考 考
研 修 期 間 中 の 一 般 業 務	(40) 見学依頼文書作成	○	◎			
	(41) 見学受入機関との事前打合せ	○	◎			
	(42) 見学プログラム作成	○	◎		○	
	(43) 研修員旅費懸案文給			◎	○	
	(44) 同行依頼文書作成	○	◎	◎	○	
	(45) 宿泊、交通機関の手配	○	◎		○	
	(46) 英文旅行目録表作成				◎	
	(47) 見学旅行ブリーフィング	◎			○	
	(48) 旅費管理(研修員旅費)			○	◎	
	(49) 旅行中の研修員把握	◎			◎	
	(50) 見学先に於ける研修内容調整	◎			◎	
	(51) 見学先に於ける説明施設	◎			◎	
(52) 見学記事作成				◎		
研 修 終 了 の 時 後 の 業 務	(53) 修了証作成			◎	○	
	(54) 閉講式の準備と進行			◎	◎	
	(55) ファイナル、レポートとり				◎	
	(56) 研修評価会の実施	◎		◎	◎	
	(57) 研修監理員報告書作成				◎	
	(58) 研修実施報告書作成			◎	◎	
	(59) 研修費精算取				◎	

契約に含まれる場合は、なれない場合は、  
国際協力事業団が行う。

研修旅行同行者も出張旅費を負担する。

分類	業	新	施設省	委託先	国際協力 事業団	研修員	備	考
研修 終了後 の業務	00	研修資料原簿保管		◎				
	01	研修総覧の編集		◎				
	02	研修員の医療、手配とアナンド			○	◎		研修旅行中の研修員の病気、事故等は同行者も補助する。
	03	邦国フレイト手配等のアナンド				◎		

注I ……分類の◎印は、主分担業務、○印は補助業務とする。

注II ……本研修は研修員数が多く研修内容も個別研修、講習等と多岐にわたるため、研修員を随時編制するため、研修を円滑に実施するには多数の研修監視員が必要である。



## R 研修の評価

### 1. 研修員の評価

- a) 研修参加国の国情を充分理解し、諸問題の解決を容易にする為に研修期間初期にカントリーレポートを提出させ、研修員の持つ諸問題を研修内容に反映させる。
- b) 研修日程及び研修内容の客観的評価の為に別添フォームによる遠隔報告を研修員に提出させ、講師陣の向上と研修内容の改善に反映させる。
- c) 各関係協賛の協力によって行われる個別研修にあたっては、終了時に研修成果を研修員にレポートの形で提出させることにより、研修員の理解度を把握するとともに、今後の個別研修の内容充実の為の資料とする。
- d) 研修員の研修全般に対する感想並びに評価、日本の橋梁技術に対する意見及び、日本の技術、文化、国民性等についての見解を述べさせる為に研修終了時に研修員より、レポートを提出させ、今後の本研修コースの内容の改善に反映させる。

### 2. 反省会の実施

研修終了後、しかるべき時期に建設省及び国際協力事業団の研修関係者と一緒に会して反省会をもつことにより、今後の本件コース研修の改善に資することとする。

昭和58年度(第19回)橋梁工学コース目録表

月日	曜日	時間	科目	題目	講師	職	名	研修場所
8.18	木		研修生梁日					
19	金		來自系統					
20	土		Free					
21	日		Free					
22	月		} JICAオリエンテーション					
23	火							
24	水							
25	木							
26	金	10:00~12:30	総設省プログラムオリエンテーション		中野正則		総設省道路局岡岡道第2課課長	TIC
27	土		Free					
28	日		Free					
29	月	10:00~12:30	日本の道路		泉盛二郎		総設省道路局企画課課長補佐	TIC
		14:00~16:30	高速自動車国道		平野 爽		日本道路公団企画課企画課長代理	"
30	火	10:00~12:30	都市内高速道路		原 光 次		首都高速道路公団第2建設部設計課課長補佐	"
		14:00~16:30	橋梁計画		宮田 年 耕		総設省土木研究所橋梁部橋梁研究科主任研究員	"
31	水	10:00~12:30	土質調査		嶋 津 晃 臣		総設省土木研究所橋梁部橋梁研究科主任研究員	"
9.1	木		総設省土木研究所見学					研 士
2	金	10:00~16:30	基礎の設計		浅 尾 秀 弥		総設省土木研究所基礎研究課長	TIC
3	土		Free					

月	曜日	時間	種	目	講	師	職	名	研	修	場	所
9.4	日		Free									
5	月		製鉄所見学(日本鋼管)									
6	火	10:00~16:00	赤壁の施工			下村 泰洋 助		徳島組土木本部部長付			TIC	
7	水	10:00~12:30	赤壁工概論			浅沼 秀 弥		徳島省土木研究所基礎研究部長			"	
		14:00~16:30	橋台橋脚の設計			山崎 淳		独立大学土木工学部助教授			"	
8	木	10:00~16:30	コンクリート橋概論			鈴木 泰 彦		オリエンタルコンクリート(株)技術部長			"	
9	金	10:00~16:30	PC橋の設計									
10	土		Free									
11	日		Free									
12	月	10:00~12:30	個別研修(マリエンケンション)			JICA					TIC	
		14:00~16:30	関西自動車道			角 谷 新		日本道路公団東京第二建設局橋造技術課			"	
13	火		関西自動車道見学									
14	水		関西自動車道									
			関西自動車道									
			PC工橋(北海道ビエム(株)見学)									
15	木		Free(秋分の日)									
16	金	10:00~16:30	PC橋の施工			理 崎 好 生		ビエムコンクリート(株)土木部工務課長代理			TIC	
17	土		Free									
18	日		Free									
19	月	10:00~16:30	RC橋の設計			小寺 瓜 郎		八千代エンジニアリング(株)技術本部長			TIC	
20	火	10:00~12:30	橋造物設計概論			伊 藤 孝 幸		東京大学土木工学部教授			"	
		14:00~16:30	橋 の 築			岡 本 淳		首都圏道路公社建設工務部技術課調査役			"	

月日	曜日	時間	科目	日	講師	職	名	研修場所
9.21	水	10:00～16:30	R.C橋の施工		石木正弘			TIC
22	木	10:00～12:30	本四架橋概説					"
23	金	14:00～16:30	研修旅行, 個別旅行 オリエンテーション		JICA			"
24	土		Free (秋分の日)					
25	日		Free					
26	月		Free					
27	火		研	東京→岡山				岡山
28	水		修	岡山→広島				本四架橋
29	木		旅	広島→北九州				広島
30	金		行	北九州→熊本				北九州
10.1	土		行	熊本→東京				熊本
2	日		Free					
3	月		Free					(参入機関) 土研: 本四架橋 新設研
4	火		個					
5	水		別					
6	木		研					道路公園 習都公園
7	金		修					
8	土		Free					
9	日		Free					
10	月		Free (休日の日)					

月日	曜日	時刻	時間	種目	講師	職名	研修場所
10.11	火	10:00～16:30		鋼橋の設計	山守徳明	官都高速道路公団工務部工事管理課長	TIC
12	水	10:00～12:30		鋼橋の施工(工場製作)	丸岡省吾	官都地鉄工務部研究開発部課長	"
		14:00～16:30		鋼橋の施工(架設)	池田 肇	新河工事(株)取締役	"
13	木	10:00～12:30		橋梁標識設計	林 國安	長大橋設計センター(株)研究開発部専門講師	"
		14:00～16:30		橋梁の自動設計	小山次郎	日本鋼管(株)橋梁製作所鋼橋造営部架設部技術室	"
14	金			鋼橋製作工場見学 (三菱重工製鋼所武工場)			
15	土			Free			
16	日			Free			
17	月	10:00～16:30		鋼合成橋時論	木田 英	金沢工業大学工学部土木工学科教授	TIC
18	火	10:00～12:30		支氷の設計	松崎 恵一	日本道路公団東京第1管理局 横浜管区事務所技術助役	"
		14:00～16:30		耐震設計	松崎 敏男	徳島大学土木研究所地震防災部耐震研究室長	"
19	水	10:00～12:30		版組理論	長谷川 隆夫	東京大学土木工学科助教授	"
		14:00～16:30		構造力学時論	白石 成人	京都大学土木工学科教授	"
20	木	10:00～12:30		橋梁の維持補修	中川 誠志	官都高速道路公団東京保安部設計課長補佐	"
		14:00～16:30		"	山口 晃廣	シ・エー・エム(株)東京支店技術部長	"
21	金	10:00～12:30		耐風設計	佐藤 弘史	徳島大学土木研究所構造橋梁部構造研究課	"
		14:00～16:30		研修旅行オリエンテーション	JICA		
22	土			Free			
23	日			Free			
24	月			研修 東京→名古屋 旅行			名古屋
25	火			研修 名古屋→神戸 旅行			神戸

月日	曜日	時間	科目	講師	職名	研修場所
1026	水		研修→大阪			大阪
27	木		大阪→京都			京都
28	金		旅行→京都			京都
29	土		Free			
30	日		Free			
31	月		研修レポート作成		同 左	
11.1	火		反省会/閉講式			
2	水		帰国準備			
3	木		Free (文化の日)			
4	金		帰国準備			

List of Participants  
Group Training Course in Bridge Engineering 1983-84

Duration: August 18 - November 4, 1983

Place: JICA-MOC

No.	Country	Name of Participants (Mr. Mrs. Miss Dr.)	(Age)	Present Post of Participant	Home Address
1	Brazil	Mr. Gilberto Mavumi Sasoda	32	Chief of Section of Public Works Survey Government Research in Technology Institution	AV-de-Cafe 77, Bloco-2 Apto-102, Jabaquara, Sao Paulo-SP, Brazil
2	Burma	Mr. Win Maung	29	Assistant Engineer Construction Corporation	House No. 237, 33rd Street Between 82nd & 83rd Street, Mandalay
3	China	Mr. Yanwu-Li	28	Assistant Engineer Ministry of Communications, China	10 Puxing Road, Beijing, China
4	Colombia	Mr. Gonzalo Antonio Lozano-Marin	29	Structures and Bridge Design Contractor Diveno Interventoria-Construction Obras Civiles Limitada, DICO	Avenida 1 Norte No. 6N-39 Cali-Colombia-South America
5	Egypt	Mr. Mohammed Mohammed Sayed	43	Assistant Resident Engineer Roads and Bridges Authority	Amwet Palatine Street No. 4
6	Ethiopia	Mr. Gonet Wolde W/Michael	32	Bridge Design Engineer Ethiopian Transport Construction Authority	Higher 17, Kebele 15 House No. 440
7	India	Mr. D.K. Kanhort	33	Executive Engineer National Highway Designs Division No. 3 Govt-Maharashtra	11/12 Dwarka Building Shastri Hall J.Dadajee Road Bombay-40007
8	Indonesia	Mr. Budt Miradi	29	Project Manager, Progressed Bridge	
9	Iraq	Mr. Mohammad Abdal Aziz Zain-Al'Abidin	28	Structural Engineer-Bridge Division State Organization of Roads and Bridges	Al-Adhama, Baghdad. Makbara Al-Malibeya Tel 22943

No.	Country	Name of Participants (Mr., Mrs., Miss, Dr.)	(Age)	Present Post of Participant	Home Address
10	Iraq	Mr. Mazin Shukri Shaker	29	Construction Engineer-General Establishment for Bridge Construction-Government	Kirkuk-Baghdad Street, Road-House
11	Kenya	Mr. Murtuki Joseph Muchina	30	Engineer Ministry of Transport & Communication	P.O. Box 55976, Nairobi
12	Malaysia	Mr. Dang Anom	31		
13	Panama	Mr. Gonzalez Rodriguez Kirk	28	Maintenance Engineer Ministry of Public Works	Manuel Maria Correa Street Chitre Prov. de Herrera
14	Philippines	Mr. Paclano D. Tubul	34	Supervising Civil Engineer II Ministry of Public Works and Highways	646-E Maria Christina Sampaloc, Manila
15	Syria	Mr. Antoine Jean Simon	35	Bridges Projects Director Construction Works Company	Damascus 440800
16	Syria	Ms. F.Y.A. Rahim	31	Civil Engineer, Head of the Technical Dept. The General, National Co.,	62 Jubbeh, Damascus, Syria
17	Tanzania	Mr. Tobias Lucas Oeno	26	Assistant Executive Engineer Tanzania bureau of Standards	P.O. Box 9524 Dar Es Salaam Tanzania
18	Thailand	Mr. Nopadol Praputtrakul	35	Chief of the Unit Bridges & Other Structures Highways Dept., Bangkok.	6701602 Charanwitwong R.D., Bangkok
19	Thailand	Mr. Yanyong Ponsontigul	34	Civil Engineer Department of Public Works, Thailand	747 Siom Rd, Bangkok Bangkok 10500, Thailand
20	Turkey	Mr. Sıgdukt Fevzi Haluk	28	Deputy Resident Engineer Kocmushan Highway & Tohma Ombired Highway & Railway Bridges Government.	Damlodol Sokak No. 64/7 Yehmahalle Ankara Turkey



見学先等受入機関及び連絡先

日 程	見 学 先 等	受 入 機 関	電 話	住 所	備 考
9月 1日(火)	高松省工本研究所	岡 庄	(0298)64-2111	T 305 高松市高松区高松町大字旭1	企画課 小田 切 昇 門 司 氏
9月 3日(水)	製紙所見学	日本製紙協	(08) 212-7111	T 100 千代田区丸の内1丁目1番2号	御機嫌営業部 前 島 明 氏
9月 13日(火)	岡崎信通環道	日本道路公団(高松工事)	(08) 230-0111	T 100 千代田区柳町5-7-2 第31添ビル	企画部 川 添 英 道 氏
9月 14日(水)	P C工場見学	北海道ビーエヌ国際興工場	(08) 918-0171	T 170 現島区北大塚1-16-6 大塚ビル	野野島補役 庄 田 英 突 氏
9月 26日(水)	岡山県内橋梁見学	岡山県道路補設課	(0862)24-2111	T 700 岡山市内山下2-4-0	橋梁課長 小 林 裕 司 氏
9月 27日(火)	本那築橋工事現場見学	本那公団第2建設局	(0862)92-6361	T 700 岡山市浮生町3の1の15 岡山商工会館新ビル内	(見学対象:第2建設局)
9月 28日(水)	広島県内橋梁見学	広島県道路補設課	(0822)28-2111	T 730 広島市中区基町10-52	橋梁課長 原 田 剛 氏
9月 29日(木)	北九州市内橋梁心ノレール 部門見学	北九州市道路補設課 日本道路公団下関管理事務所	(093)882-2279 (0832)32-2811	T 803 小倉北区堀内1-1 T 751 下関市大字原野字岩谷の後64	改良第2係長 井 上 和 義 氏 助 役 岡 本 氏
9月 30日(金)	熊本県内橋梁見学	熊本県道路補設課	(0963)83-1111	T 862 熊本市水前寺6-18-1	橋梁課長 加 来 雄 一 氏

日程	見学会等	受入機関	電話番号	住 所	備 考
10月3日(外) ～7日(内)	御所野修 御所野修	建設省土木研究所 道路公園 京都高速道路公園	(0298)64-2111 (03) 230-0111 (03) 502-7311	T 305 茨城県茨城郡鹿嶋市大字旭1 〒100 千代田区麹町5-7-2 〒100 千代田区霞ヶ関1-4-1 日土地ビル	(受入先: 茨城町) 新築研) (受入先: 茨城) 沼田工務 日立工務
10月14日(内)	御所野修 御所野修	三波工工業の技術製作所	(045)621-1234	茨城県中區錦町1 2	
10月24日(内)	茨城県内務梁見学	筑知県道路建設課	(052)961-2111	T 460 名古屋市中央区三の丸3-1-2	生梁(橋梁) 英 氏 市川
10月25日(内)	神戸市内務梁見学	神戸市道路建設課	(078)331-8131	T 650 生田区加納町6-7	道路建設工事第2 係長 中村武功 氏
10月26日(内)	大阪市内務梁見学	大阪市橋梁課 阪神高速道路公社工事部第一課	(06) 347-0521 (06) 252-8121	T 530 北区南船場上4-10 〒541 東区北久太郎町4-68 大阪センタービル	第1設計係長 石岡英 男 氏 庶務係長 山本 純 一 氏
10月27日(内) 28日(内)	京都府内務梁見学 京都府内見学	京都市道路建設課	(075)222-3576	T 604 中京区河原町御池上ル	橋梁係長 和田 征一郎 氏

橋梁工学年次別受入園別実績表

研究団 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
実 施 年 度	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	小計
研究員受入実績	7	8	8	7	8	14	8	10	14	14	14	13	14	14	17	16	15	16	20	237
パンクワザン									1	1			1	1	1	1	1	1		8
ブーダン								1												1
ピル			1						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
イノド		1	2		1	2		1	1	1	1	1	1							13
インドネシア	1	2		1	1	2	1	1		1	1	1	1			1	1	1	1	17
大 塚 民 団									1	1				1						3
クオオス				1	1	1				1										4
クメール									1	1										2
マレイシア					1				1		1				1	1			1	6
ネパール							1													1
パキスタン	1					1					1	1								4
アラブエミラツト													1							1
フィリピン	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				15
シンガポール						1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	12
スリランカ		1	1																	2
タイ	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	19
中 計	1	1	1																	6

研究回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19			
実施年度	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	小計		
エシプト									1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	
イタリヤ	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1							11	
イタリヤ						1	1							1	1	1	1	1	1	1	2	10
メキシコ														1	1	1					3	
シリア																	1				2	3
トルコ	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
アラブ首長国連邦							1															1
ベトナム						1	1	1	1													4
モロッコ																					1	1
ケニア															1		1	1	1	1	1	4
リベリア																						1
ザイール														1	2	1	1	1	1	1		6
シネガール																					1	1
タンザニア								1		1	1	1	1	1	1	1	1					9
ウガンダ									1													1
マリケイ											1	1	2	1	2	1	1	1	1	1		8
ブータン	1			1							1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	13
ポランド	1															1	1	1	1	1	1	5
ベトナム																					1	1
ベトナム								1					1		1	1	1					5

研究修評価報告

月日	課	科目	部	研究員による評価の評價(人数)											主たるコメント		
				A	B	C	D	E	項目	A	B	C	D	E			
				内容							英語力						
				明確さ													
				展開							総合						
				内容							英語力						
				明確さ													
				展開							総合						
				内容							英語力						
				明確さ													
				展開							総合						
				内容							英語力						
				明確さ													
				展開							総合						
				内容							英語力						
				明確さ													
				展開							総合						
				内容							英語力						
				明確さ													
				展開							総合						

# DAILY EVALUATION REPORT

NAME \_\_\_\_\_  
 COUNTRY \_\_\_\_\_

DATE	EVALUATION OF PROGRAM	COMMENT
SUBJECT	CONTENT	A B C D E
	CLEARNESS	A B C D E
	PRESENTATION	A B C D E
	LANGUAGE	A B C D E
	TOTAL	A B C D E
	EVALUATION OF PROGRAM	COMMENT
SUBJECT	CONTENT	A B C D E
	CLEARNESS	A B C D E
	PRESENTATION	A B C D E
	LANGUAGE	A B C D E
	TOTAL	A B C D E
	EVALUATION OF PROGRAM	COMMENT
SUBJECT	CONTENT	A B C D E
	CLEARNESS	A B C D E
	PRESENTATION	A B C D E
	LANGUAGE	A B C D E
	TOTAL	A B C D E
	EVALUATION OF PROGRAM	COMMENT
SUBJECT	CONTENT	A B C D E
	CLEARNESS	A B C D E
	PRESENTATION	A B C D E
	LANGUAGE	A B C D E
	TOTAL	A B C D E
	EVALUATION OF PROGRAM	COMMENT

